TADOKU JUNIOR　イソップ物語　★★★☆☆ ふつう　419語

The Miller, His Son, and the Ass

粉屋の親子とロバ

Aesop（1919年の本）　原文そのまま　朗読：Jill Engle

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　ロバを売りに行く粉屋の親子。会う人ごとに言われるとおり、乗ったりおりたりしているうちに、とんでもないことに……。



One day, a long time ago, an old Miller and his Son were on their way to market with an Ass which they hoped to sell. They drove him very slowly, for they thought they would have a better chance to sell him if they kept him in good condition. As they walked along the highway some travelers laughed loudly at them.

"What foolishness," cried one, "to walk when they might as well ride. The most stupid of the three is not the one you would expect it to be."

The Miller did not like to be laughed at, so he told his son to climb up and ride.

They had gone a little farther along the road, when three merchants passed by.

"Oho, what have we here?" they cried. "Respect old age, young man! Get down, and let the old man ride."

Though the Miller was not tired, he made the boy get down and climbed up himself to ride, just to please the Merchants.

At the next turnstile they overtook some women carrying market baskets loaded with vegetables and other things to sell.

"Look at the old fool," exclaimed one of them. "Perched on the Ass, while that poor boy has to walk."

The Miller felt a bit vexed, but to be agreeable he told the Boy to climb up behind him.

They had no sooner started out again than a loud shout went up from another company of people on the road.

"What a crime," cried one, "to load up a poor dumb beast like that! They look more able to carry the poor creature, than he to carry them."

"They must be on their way to sell the poor thing's hide," said another.



The Miller and his Son quickly scrambled down, and a short time later, the market place was thrown into an uproar as the two came along carrying the Donkey slung from a pole. A great crowd of people ran out to get a closer look at the strange sight.

The Ass did not dislike being carried, but so many people came up to point at him and laugh and shout, that he began to kick and bray, and then, just as they were crossing a bridge, the ropes that held him gave way, and down he tumbled into the river.

The poor Miller now set out sadly for home. By trying to please everybody, he had pleased nobody, and lost his Ass besides.

> **If you try to please all, you please none.**

むかしむかしのある日、年とった粉屋とむすこが、ロバを売りに市場へ向かっていました。ロバの元気なようすをたもっておけば売れやすいと思ったので、二人はロバをとてもゆっくり歩かせていました。大通りを歩いていると、旅の人たちが大声で二人を笑いました。

「なんてばかなんだ」と一人がさけびました。「乗っていけばいいのに、歩いているなんて。三びきの中で一番まぬけなのは、思っているのとはべつのやつらしいぞ。」

粉屋は笑われるのがいやだったので、むすこにロバに乗るように言いました。

道をもう少し進んだところで、三人の商人が通りかかりました。

「おやおや、これはどういうことだ？」と商人たちはさけびました。「お年よりをだいじにしなさい、わかいの！おりて、おじいさんを乗せてあげなさい。」

粉屋はつかれていなかったのですが、商人たちに気に入られようと、むすこをおろして、自分がロバに乗りました。

次の木戸のところで、二人は、売るための野菜やいろいろな物を市場かごにいっぱい入れて運んでいる女の人たちに追いつきました。

「あのばかなおじいさんを見てごらん」と一人が声を上げました。「ロバの上にちょこんと乗って、かわいそうに、あの子は歩かされているじゃないの。」

粉屋は少しむっとしましたが、みんなに合わせようと、むすこに自分のうしろに乗るように言いました。

また歩きだしたとたん、道にいたべつの人たちから、大きな声が上がりました。

「なんてひどいことを」と一人がさけびました。「口もきけないかわいそうな動物に、あんなに重いものを乗せるなんて！あの二人のほうが、かわいそうなロバを運べそうだ。ロバが二人を運ぶよりよっぽどね。」

「きっと、かわいそうなロバの皮を売りに行くところなんだよ」とべつの人が言いました。

粉屋とむすこはあわててロバからおりました。それからしばらくして、二人がロバを一本のぼうにつるして運んでくると、市場は大さわぎになりました。このめずらしいながめを近くで見ようと、たくさんの人がかけよってきました。

ロバは運ばれるのはいやではありませんでしたが、あまりにたくさんの人がやってきて、ゆびさしたり、笑ったり、さけんだりするので、あばれてヒーンと鳴きはじめました。そして、ちょうど橋をわたっているときに、ロバをしばっていたなわが切れて、ロバは川の中へ落ちてしまいました。

かわいそうな粉屋は、しょんぼりと家へ帰っていきました。みんなに気に入られようとして、だれにも気に入られず、そのうえロバまでなくしてしまったのです。

> **みんなに気に入られようとすると、だれにも気に入られません。**

たんご と クイズ 粉屋の親子とロバ

Miller 粉屋	**Son** むすこ	**Ass** ロバ
market 市場	**baskets** かご	**vegetables** 野菜
pole ぼう	**bridge** 橋	

Q1 商人たちは、だれがロバに乗るといいと言った？

① むすこ　② おじいさん（粉屋）　③ だれも乗らない

Q2 市場で、二人はロバをどうやって運んだ？

① ぼうにつるして運んだ　② 車に乗せた　③ せなかにおぶった

Q3 さいごに、ロバはどうなった？

① 高く売れた　② 川に落ちてしまった　③ 家へ走って帰った

こたえ

Q1 ② 商人たちは「お年よりをだいじにしなさい」と言って、おじいさんの粉屋を乗せるように言いました。

Q2 ① 二人はロバを一本のぼうにつるして運んできたので、市場は大さわぎになりました。

Q3 ② 橋をわたっているときになわが切れて、ロバは川の中へ落ちてしまいました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：Milo Winter（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Jill Engle（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。